

目標9 2050年までに、こころの安らぎや活力を増大することで、精神的に豊かで躍動的な社会を実現

脳指標の個人間比較に基づく福祉と主体性の最大化

Project manager

松元 健二

玉川大学 脳科学研究所
教授



代表機関

玉川大学

研究開発機関

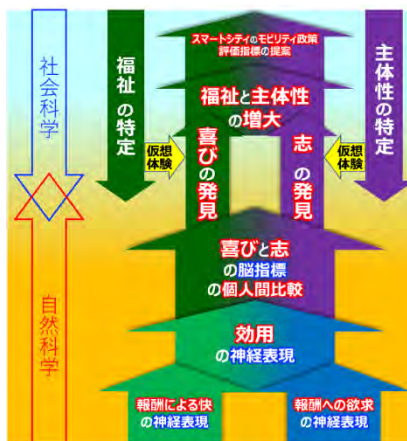
カリフォルニア工科大学
国立精神・神経医療研究センター

玉川大学
筑波大学
帝京大学
東京大学

プロジェクト概要

このプロジェクトは、「幸せ」の個人レベルでの向上だけでなく、その社会レベルでの集約や平等性の実現を目指しています。そのために、個人間で比較可能な「幸せ」の指標を脳活動から測定する革新的な技術を提供します。

「幸せ」は、各人の生活を利用する「福祉」だけでなく、人それぞれの生き方である「主体性」によっても高まります。これからの社会における「福祉」と「主体性」を、人文・社会科学的手法と仮想現実技術を用いて研究します。そして、その個人間比較を、個々人の実感としての「喜び」や「志」の脳指標を解明することで実現します。そうすることで、詳細な神経科学研究を、スマートシティにおけるモビリティ政策の評価など、実社会の活動へと橋渡しします。



2032年のマイルストーン

時代に即した喜びと志の強さを体温のように脳活動から読み取ることで、個人や集団の喜びや志の強さを促すとともに、新たな政策評価法を提案する

2027年のマイルストーン

志の強さに関係する脳活動を洗い出し、脳科学の知見に基づき、自ら動き出すことで喜びと志を発見する体験型システムを開発する

プロジェクト内の研究開発テーマ構成

